

住まいと暮らしのデザインブック

住まいnet新潟

WWW.SUMAI-NIIGATA.NET

vol.40

AUTUMN & WINTER 2025-2026

550yen

SUMAI NET NIIGATA
20TH ANNIVERSARY

建築士 の住まい

創刊20周年記念特集

誌上で
完成見学会

新潟の住宅実例集

住まいづくりの
アイデアを探して

かたいものとやわらかいもの

読者プレゼント!

資料請求された方々に
多数プレゼントをご用意しております

SUMAIZUKURI
DESIGN
CENTER
SDC
NIIGATA

創刊20周年
記念特集

014
201

建築士の住まい

誌上で完成見学会

新潟の住宅実例集

059

060 有限会社大恭建興

066 株式会社高田建築事務所

072 株式会社ユーホームズ

078 和ごころ工房／大栄建設株式会社

084 アーキレーベル／株式会社鈴木組

090 キズナハウジング／株式会社小池

096 k・design house／株式会社桐生建設

102 株式会社キューブデザイン

108 西原建築事務所株式会社

114 株式会社フラワーホーム

120 ダイケンアーキテクト／株式会社大建建設

126 株式会社石田伸一建築事務所

132 BAN home／株式会社藤真工業

138 roomz 株式会社星野建築事務所

144 イエライフ／小出建設株式会社

150 アットホームラボ／株式会社アオキ住建

156 オーガニックスタジオ新潟株式会社

163 新潟の冬と夏を快適に

建てるなら雪国型ZEHの住まい

Welcome to Model house

モデルハウスへようこそ

168 デイテールホーム／坂井建設株式会社

ビルダーリポート

177 T's home／津野建設株式会社

182 株式会社瀬賀工務店

186 株式会社サンウッド新潟

188 株式会社カタチ創庫

190 LOCAL LIFE STANDARD／株式会社池田組

192 グリーンスタイル／ダイエープロビス株式会社

特集

住まいづくりの
アイデアを探して

240 かたいものとやわらかいもの

ビルダーズモア

300 ものの生まれるところへ
住まいNET新潟読者プレゼント

資料請求方法

SUMAI NET NIIGATA
20TH ANNIVERSARY

ある建築士の手書きの図面を見たことがあります。
長い長い巻物に、細かく鉛筆で描かれていました。
「手書きっていいな」「紙っていいな」。そんな思いを
「20」に込めました。「住まいnet新潟」生まれて20年
40号。まだまだ紙で出し続けます。

建てようかな。思い始めたらここへ



CLIENT

自分たちの要望を受け止め
整理してくれたおかげで
道が開けた
相談者 新潟市中央区 Kさんご家族



ADVISER

要望の先にある「大切なこと」も
引き出して紹介しています
アドバイザー 阿部みか

住まいnet新潟
LOUNGE

人柄を伝えてくれたので、心構えして会いに行けた」と二人は口を揃える。さらに「私たちの相性も考えてくれました」。

アドバイザーの阿部みかさんによれば「お会いして話した感じや、求める家の方向性で、合いそうだな」と思ったら、その印象も伝えるようにしています」と。結局、K夫妻は1社のみ面談し、1件目で依頼を決めたが、家づくりの道筋をつけてくれたと振り返る。「いろいろ話す中で、私たちなりに大事にしたいところを整理できたのもありがたかった」。ラウンジを訪れる前は「決め手が分からない」と止まっていたという二人。「何をポイントに見ていけばいいか、その指標も示してくれました」。同僚に教えられ、訪れたご主人は今、後輩にラウンジを勧めているという。



二人の意向を踏まえて提示されたのは5社。「行く前に、会社の方向性や社長の

夫婦それぞれに、住みたい家のイメージがあった。「実家が寒かった」というご主人は暖かい家を希望した。「造作家具を入れて欲しい」とは奥さま。自分たちに合わせた家具を配して暮らしやすく、統一感のある雰囲気になることを望んだ。

緑に囲まれたインテリアショップS・H・S鳥屋野店。角にある「住まいNET新潟ラウンジ」をはじめて訪れた時、K夫妻は軽い気持ちだったという。「大手ハウスメーカーのモデルハウスを回っていましたが、同僚がラウンジの紹介で家を建てたと聞いて、そういう選択肢もあるんだ、一回行ってみよう」と。ラウンジでは、これまで知り得なかった地元の工務店や設計事務所を紹介してもらったことを知った。さらに大手ハウスメーカーと地元ビルダーの違いを教えてもらった。「目からウロコでした。来て良かったね」と言いながら帰ったことを覚えています。

住まいNET新潟ラウンジは
自由な家づくりをサポートする場所です。
新潟の住宅会社の中から、
あなたにぴったりの一社を紹介します。

建築士の住まい

PART
1

建築士って、どんな家に住んでいるんだろう。

依頼を受けて建てた家とは、似ているのか違うのか。

単純に、見たいと思った。

これまで取材してきた家々の、源を確かめたかった。

千差万別、多種多様。

しかし共通点があった。

「買われにくい」土地を選んでいること。

必要最小限を考えていること。

ざっくり大らかにつくっていること。

完成形より自由を、余白を。

足るを知って、身の丈に。

12軒の住まいは

家づくりのヒントというより

住まいをどう考えるか、

そして「住まいとは？」を問い掛けてくる。

まずは6人の建築士の住まい。

はじめて『住まいNET新潟』に登場する。



西に面した木製サッシを開けると、街並みの向こうに海。水平線を眺めるため、目線と意識を上方向へと向けるため、開口は低めにとった天井2250mmぎりぎりに設けている。椅子やテーブルも低いものを選び重心を低くしたという

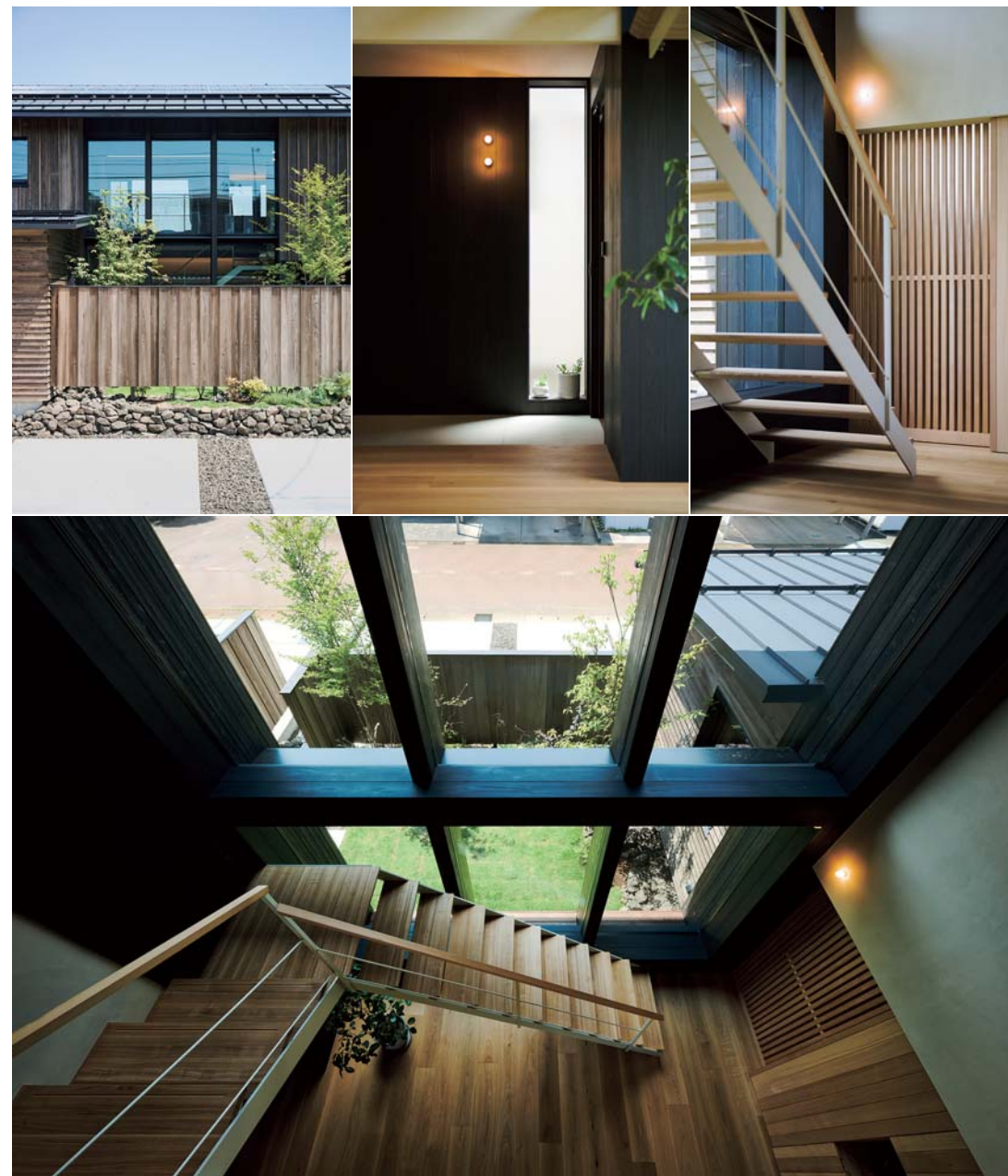
傾斜地の高台から、日本海の水平線を望む

「海を眺めたい」と探し当てた敷地は、高低差があり砂に埋もれていたという。
「クセを生かせばおもしろくなる」。いつもの流儀にのっとり、力を抜いて建てた。

architect 佐藤 靖久 キューブデザイン



木とガラスの正面、
田園を臨む裏面。
南北が筒状につながって



右頁・上右／水回りとの仕切りには格子。階段の手すりは壁と同じグリーングレーに塗装し、空間に馴染ませている 上中／玄関ホールは黒壁に 上左／長く提案している杉板の外観。しかしガラスを区切る大きな格子に、いつもとは異なる雰囲気 下／吹き抜けの壁は全面ガラスに。風から守るための梁も柱も構造に意匠を兼ねさせている 左頁／フレームレスに田園を臨む2階ホール。照明を直線に仕込んだ格子天井の下、ベンチは1階と同じく低めに

右頁・上／階段を上ると、この景色。明るいテラスを背景に落ち着いた室内。ダイニングキッチン、下が土間であることから一段下げてスキップフロアに。キッチンに立つと、ソファに座った人と視線が合うよう高さを計算 下／ガラスの戸が玄関口。大谷石のアプローチを背景に、ガラスにはご自身らしくデザインされた苗字がひそやかに 左頁・下右／アオダモの葉影がテラスに落ちる 下左／「好き」が詰め込まれたキッチン。愛おしい気持ちが伝わってくる



機能を重ねて、視線を抜いて。
小さな家を豊かに伸びやかに

architect 若山裕未 サルキジーズ

「コンパクトな住まいですね。面積はどのくらいですか？」

土地は30坪で延床面積は21坪。設計の仕事をする前から「大きな家が必要な」と思っていました。今はなおさらです。設計次第で広く見せることはできるし、暮らし方を工夫すればいい。

「メリットはどこなところ？」

建築費はかからないし熱効率もいい、掃除はラク。いいことはいっぱいあります。

2階に上がると、テラスに視線が抜けて広々。スキップフロアによってリズムもある。

当初は、公園に面した道路側にテラスをと思つてプランを始めました。でもなかなかしっくりこない。テラスでくつろいでい

るのが外から見えるのもどうだろうと思ひ始めて。

結局、眺めのいい道路側には四角いフィックス窓だけ。

思い切つてテラスを東側に持つてきたらプランがすーっと定まった。中庭ができて、木を植えられるし駐車スペースに屋根もかけられる。眺めはフィックス窓から十分と割り切つて。

景色を眺めながら料理できるの、いいですね。それにリビングから見るキッチンの景色もいい。

季節や時間で景色が変化するので、いつも気持ちよく料理ができます。それに、好きな料理道具や器は飾りたいし、日々使うものは表に出しておきたかった。た



だ、キッチンを中心にするのはちょっと違うなど。壁付けにすることで部屋は区切られることなく一体感も生まれました。

住まいの選択肢を
単身世帯にも身近に

「1階も2階も、仕切りがあまりないですね。」

仕切ると視線も止まって狭く感じてしまう。代わりにリビングの棚は仕切りを兼ねさせて両方から使えるようにしたり、寝室やパントリーからは扉自体を省いたり。キッチン上の棚もオープンにしました。

「しかもちょっとした凹みとか通路の先まで有効に使われている。」

空間に対しても「もったいない」「無駄にしたくない」って気持ちががあるんです。リビングの床はダイニングテーブルのベンチにしてパントリーは部屋の隅っこ。半帖程度ですが書斎にもできるように考えました。一つの場所にいろんな役割を乗せています。

「コンパクトに納める秘訣ですね。機能を重ねて効率よく空間を使っている。実際に暮らしてみてもいいですか？」

暮らしやすいですし、さらに要らないものが見えてきて、特に家電が少なくなりました。炊飯器をやめて土鍋でご飯を炊くようになって、お湯はやかんで沸かして。

「暮らしの実感が得られたことで、提案にも幅が出たのでは？」

それぞれの要望に寄り添うことが第一。

ただ土地も住まいも「このくらいでも大丈夫」「いろいろあきらめなくても暮らせる」とは言えるようになりました。

「若山さんの自邸を見て、家建てるというハードルが低くなった気がします。特に単身の女性に伝えていきたい。結婚してから」「子どもが生まれてから」ではなくて家づくりを始めた方がいいじゃないと。

「自邸はそのモデルケースに。」

実際に見てもらつて、建築を決めた方もいました。暮らしは2階の約35㎡ではほぼ完結。ミシンを置いた1階は趣味の部屋にしてもいいし、将来的には部屋として使うこともできる。「はじめから決め込まなくていい」とも伝えたい。

「広い土間もいいですね。いろいろ使えそうで。」

個室にもできるし、いつか惣菜屋をしたいなとも思っていて。後で入り口に変えられるようにとりあえず小窓を付けました。

「小さな中に暮らしの楽しさ、心地いい時間、加えて夢も将来も織り込まれている。『気楽に小さく始めよう』と勇気づけられている気がします。」

好きな建築家は？
伊礼智 穏やかさが設計に溢れています。

好きな建築は？
歴史的建造物 先人たちの技と工夫に感動します。

趣味をとことん楽しむ、高性能な木の家

高性能、木の家、自社大工。3つを前提にビルダーを探した多趣味なAさん。
新しい住まいに望んだのは、趣味と暮らしの一体化だった。

有限会社大恭建興

長岡市A邸 一木造軸組工法 一工期150日 一フリープラン

EXAMPLE REPORT
DAIKYO KENKO



長 岡にUターンしたAさんが、息子さんと二人で暮らす家を建てることになった。東京で建てた9坪の狭小住宅を売って2軒目となる住まい。まずはロケーションにこだわったという。「せっかくだから、田んぼや山に近いところでゆったり暮らしたいと思いました」。お隣との間に余裕が持てるような土地を探しながら、ビルダーも探した。条件は高気密高断熱、木の家、自社大工。一軒目を建てて家に興味を持ったAさんはYOU TUBEを見始め、性能や工法、素材を知り、自分なりに二つの結論を導いていたという。「当初はコンクリートが最強かと思っていましたがそうではないと覆された。高性能な木の

家があると知り、今度建てるならそれだと」。一軒目の家が分業で建てられ、トラブルの対応などがたらい回しになったことも改善したい点だった。「設計施工を社内で一貫しているところがいいと思いました」。条件をもとに30〜40社のホームページを見比べ、最終的に2社に絞った。どちらにするか。決め手はオープンハウスで小幡大樹専務に会い、釣りの話で盛り上がったのが大きかったという。「ブログを読んでいたので共通点は感じていました。実際に会ってみたらとても感じが良くて、見学した家もカッコいい。その場で予約しました」。Aさんの趣味はビリヤード、車のほか釣り、キャンプなどのアウトドア。新しい住まいにインナーガレージやウッドデッキは必須だった。

右頁・右下／ブルーのクロスにカラフルなボールが映える
左／壁際には収納を兼ねた長いベンチを端から端まで造作。ビリヤード台の基部はウォールナット 左頁・上／右のガレージが少し前に迫り出し、セットバックした住まいと組み合わせる片流れ屋根の外観。付加断熱によって高性能を確保
下右／ガレージの裏にはデッキ。キッチンとも直接行き来できる 下左／ガレージの屋根を伸ばし、内側を玄関ポーチに。グレーの木の壁は、時とともに塗装が退色する一方で木の色も抜け、同じ表情が継続するという



床、壁、ソファ、キッチン、照明、さらに中庭の床、外壁と、素材の異なる白が柔らかなグラデーションを描きだしている。キッチン、アールの壁、ダウンリビングといった二人の求めるパーツを組み合わせて、立体空間に押し広げられた



さまざまな白がグラデーションを描き出すLDK

白

いつてもマットでニュアンスのある色合いの箱が二つ並ぶ。無駄な線を省いたシンプルな形、窓の無い外観。しかし室内に入ると一転、隅々まで明るい。k・design houseのいつものスタイルだが「桐生グレー」ではない。床、壁、天井、見渡す限り白で、そこにアーチや家具、照明が表情を添えている。

設計は二人が集めているものや希望のキッチンメーカー、そして奥さまが選んだフロアタイルを起点に進められた。「床は木のフロアリングじゃないなと思って。サンプルを取り寄せて、石やタイルに近い表情のものを選びました」。一時はサンブルの山に向き合い、キッチンは隣のショールームまで出向いた。同行した桐生和典常務は言う。「小さなサンプルを見ても、実際にどんな感じになるのかをイメージするのは難しい。二人が選んだ複数のパーツを、空間という三次元に押し広げて提案しました」。ダウンリビングとアールの壁の配置。フロアタイルに合う壁や天井の素材、幅や高さの比率、全体を俯瞰しつつディテールを積み重ねて、統一感ある雰囲気生まれた。

そしてこの空気感に欠かせないのが、精緻な造作だろう。ミールのオープンを組み込んだ棚、洗面台、洗濯機を組み込んだカウンターの棚。どれも直線が際立ち、空間をすっきり美しく仕立ててい

る。「リビングが素敵な家はたくさんあっても、水回りが素敵だったのは桐生さんのところだけ。家も、この感じで仕上げてくれると思った」。奥さま期待通りの完成度だが、随所に微調整も加えられている。例えば、希望だった螺旋階段は折り返し階段に、キッチンの収納棚はキッチンハウスの既製品に合わせて一部、造作に。予算内に収めるため、桐生常務は要望に対して可否の二択ではなく「第三の選択肢」を示した。「寄り添ってくれる」。二人が感じた印象が見える部分だ。「うん、かわいい。こもかわいい」。家を案内してもらった間、奥さまが何度も発した言葉が印象的だった。暮らし始めて2カ月。二人とも「朝が来るのが待ち遠しい」と話す毎日の中で、住まいと住まい手のしあわせな関係が見えた。

07

資料請求番号

敷地面積／267.01m(80.77坪)
延床面積／126.89ポ (38.38坪)
1階面積／108.68m(32.87坪)
ロフト面積／18.21ポ(5.50坪)
工 法／木造軸組工法(金物)
基 礎／ベタ基礎
断熱材／グラスウール、セルロースファイバー
フェルトフォーム
屋根材／ガルバリウム銅板
外装材／ガルバリウム銅板、モルタル塗り
内装材／ビニルクロス、塗装
床 材／ミズナラ複層フローリング
開口部／断熱サッシ(YKK AP、LIXIL、シャノン)
キッチン／クリナップ
バスルーム／TOTO
その他／長期優良住宅、ZEH
竣工年月／2025年6月
家族構成／夫婦＋子ども2人



西原建築事務所株式会社

〒950 0923新潟市中央区姥ヶ山1 2 13
Tel 025 333 8415 Fax 025 333 4885

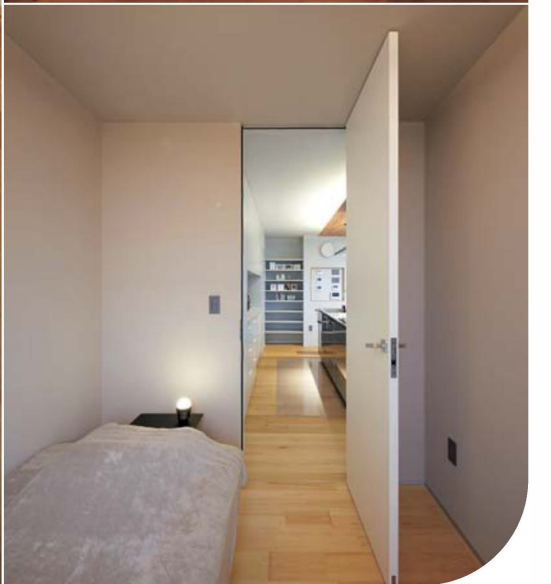
詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

09

資料請求番号



資料請求をしていただいた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。※詳細は307ページをご覧ください。スマートフォンからでも資料請求できます。



右頁「右上／奥さまの希望で対面キッチンに。キッチンからテレビが見え、リビングで遊ぶ子どもを見守ることもできる 右中／TVの背景にある塗り壁は、好きな模様をセレクト。時計や絵画も飾れる 右下／個室からキッチンを見る。遮音性の高い建具や壁により、隣にキッチンがあってもプライベート感が保たれる 左／上にロフトを設けたリビングは目線の違いを楽しめる。床は、高い技術力が要される「すだれ張り」に。つなぎ目を「直線」に揃えて張る方法で、空間に広がりを持たせられる 左頁「上／天井と床に木を張ったロフトは5坪ほどの広さ 中／少し重い防音扉の先に寝室。壁には「雪灰(シュエホイ)」という青みがかったグレーを採用。リビングも同じ色に 下／洗濯スペースと浴室が隣り合う。フロアのスリットから床下エアコンの暖気、冷気が届く仕組みだ



右頁／外壁で囲った内側には、プライベート感あふれるテラス。吹き抜けで空に抜け、二層三方へと光と風を届ける 左頁・上／シャンパンを思わせるシルバーブラウンのガルバリウムを縦張りに。玄関は2階を張り出して屋根としている 下／開放感ある吹き抜けのダイニングに対して、手前のリビングスペースは籠る雰囲気。ひとつながりの空間に、設計とインテリアで異なるエリアをつくり出している



新発田市住吉町モデルハウス

まちなかで
光や開放感とともに
暮らす

wel
com
etomode
HOUSE

ディテールホーム／坂井建設株式会社

18



「グハウス風の木の家を建てたい」。そう思っていたTさんはまず、全国でログハウスを展開する会社の展示場を訪れた。ただ、規格の間取りありきで建築費も予算以上。そこで「木の家」と検索し、瀬賀工務店にたどり着いた。「WEBサイトにイメージ通りの家が掲載されていました。地元の工務店でこの形が実現できると分かって、すぐに会いに行きました」。トップページには「木をたっぷり使った家」ともあった。新建材の外壁やクロスを貼った壁に「どこか薄っぺらさ」を感じていたTさんにとって、大きな魅力だった。瀬賀敏彦社長曰く「棟の家で、だいたい1.5倍は天然無垢材を使っている」とか。T邸では外壁はもちろん床、

壁、天井と見渡す限りすべて無垢の木。ウッドショックで高騰した木材だが、同社では製材所からの一括仕入れによって値上がり分を吸収。さらに自社大工が建てることで、無垢の木の家をコストを抑えて提供できるのが強みだ。

こうしてT邸は、木を使いながらモダンで別荘のような雰囲気仕立てられた。大屋根がポーチとなつた外観、土間とフラットにつながるリビング、小上がりの畳スペース。瀬賀社長から一部吹き抜けを提案され、玄関ホールには仕切りと猫の脱走防止を兼ねた大きな「木の箱」が造作されている。「ウッドデッキを広げたり木の箱を加えても良かったり。それでも当初の予算内でこの完成度と重量感は本当に満足」。Tさんは今「外より家で過ごす時間が増えました」と木の家の暮らしを満喫している。

右頁・右上／木の階段はキャットウォークにも 左上／大きく張り出した軒下にはポーチと玄関。屋根が大きなタープのように日差しをカットし外観のポイントに 下右／ウッドデッキにはバイクや椅子を出して 下左／玄関を入ると大きな木の箱の中。リビングとの仕切りを兼ねて、後付けで造作された 左頁・右／薪ストーブと土間のあるリビング。上部は吹き抜けに 左上／吹き抜けからリビングを見下ろす 左下／小上がりの畳スペースは、家の中の特別な箱のよう

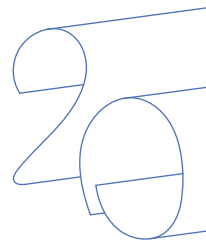
天然無垢材をふんだんに使った木の家を提案
床、壁、天井、階段。構造材も含め、ほぼ木だけを使って家を建てる瀬賀工務店。圧倒的な使用量と別荘風のモダンな実例を見て、Tさんは依頼を決めたという。

株式会社瀬賀工務店

T邸
新潟市秋葉区
木造軸組工法
工期120日
フリープラン



BUILDER REPORT
SEGA KOUMUTEN



プラス +コンテナで必要最小限に楽しみを

ご主人は釣りやミニチュアカー、奥さまは料理とお菓子作り。それぞれの趣味を大切に、二人の「必要十分」を探ってコンテナのある住まいが生まれた。

株式会社カタチ創庫

M邸
新潟市南区
木造軸組工法
工期120日
フリープラン



「秘」 密基地みたいで男心をくすぐられた。Mさんはコンテナありきで家考えたという。一方の奥さまは料理が好きでお菓子作りが趣味。「家でカフェ時間を楽しみたい」と思っていた。いわゆる「普通の家」のカテゴリーに収まらないイメージを持っていた二人、コンテナ専門店カタチパークを併設するカタチ創庫の織田島崇さんに会って「いい意味で普通じゃなくて、分かってくれると思えた」と話す。初回、目の前で描いてもらったスケッチを見て決めた。「わーって思っ、ほぼそのまま建ててもらいました」。

打ち合わせを通して二人は、少しずつ考えが変わっていったという。「子ども部屋もリビングも寝室もなるべく広く思っていました」。

だが、将来を考えれば広くなくていいと言われた。設計では、玄関ホールを仕切って子ども部屋にできるよう可変性を持たせ、LDKの角には奥さまがうちカフェを楽しむ小さなテーブルが置かれた。階段を上ると対面キッチン、しかし壁によって遮られ、飾られた壁面だけが目に入る。生活感が隠されているため、うちカフェではゆったり喫茶の時間を楽しめるのは間違いない。ご主人はコンテナに釣り竿やミニカーを置いて趣味に没頭する予定。「これから手を加えたりつくっていく楽しみがある。そのベースをつくってもらった」とM夫妻。織田島さんは「家づくりを通して自分たちの必要十分を見直したからこそ」と応えた。ここは「普通の家」ではない。趣味時間を大切に、必要最小限を形にした暮らしらしい住まいだ。

株式会社カタチ創庫

〒956-0002 新潟市秋葉区市之瀬17-1
Tel 0250-47-3212 Fax 0250-47-3213

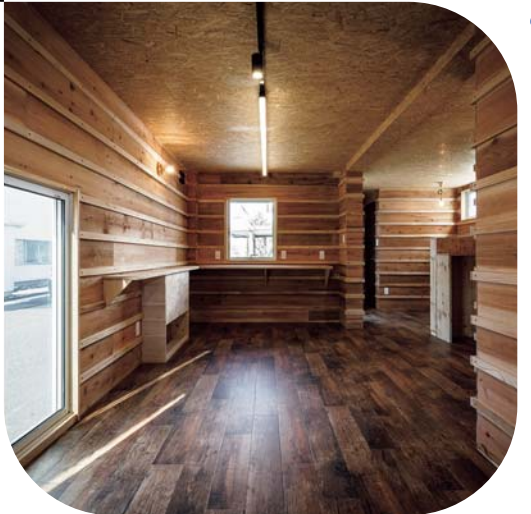
詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

22

資料請求番号



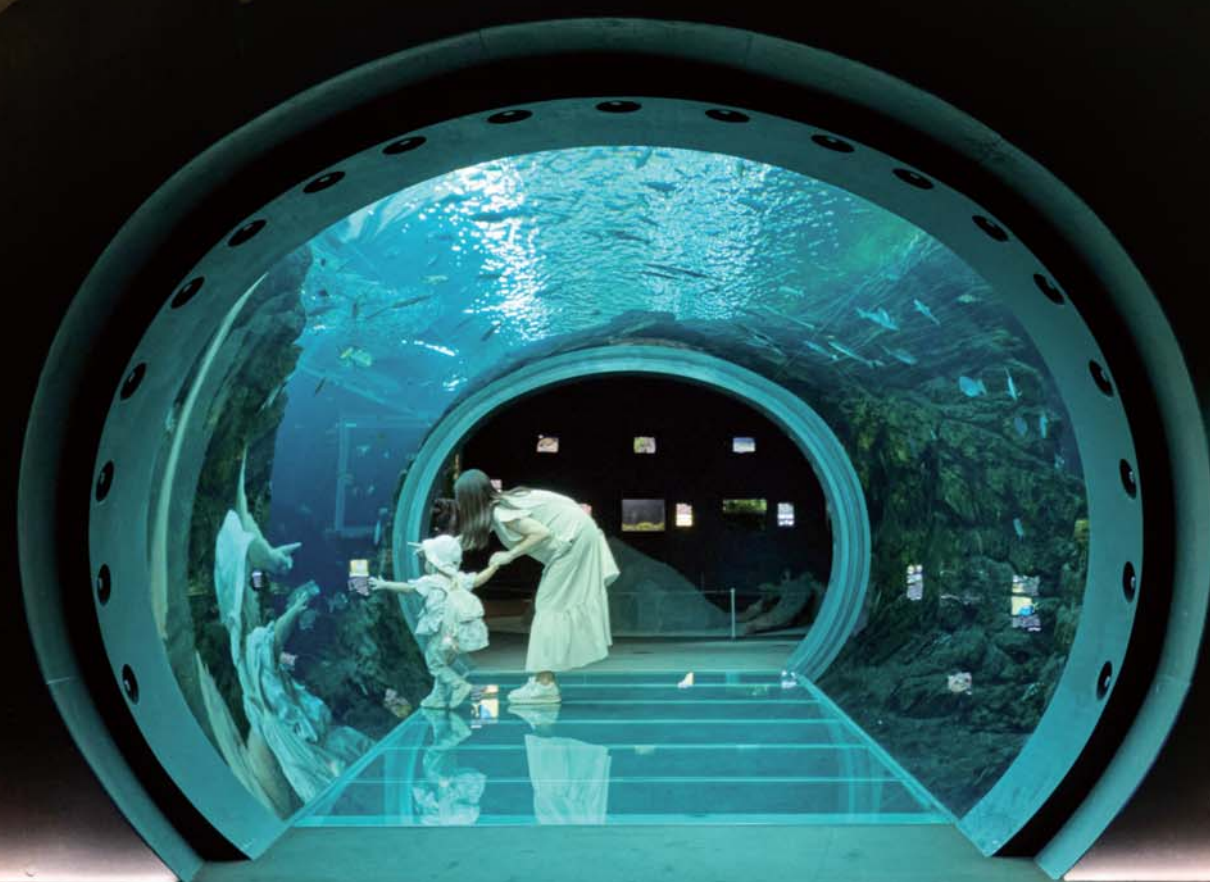
資料請求をしていただいた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。※詳細は307ページをご覧ください。スマートフォンからでも資料請求できます。



かたたいものと

特集

建築は、いろいろなものでできている。
かたいもの、
やわらかいもの、
自然から生まれたもの、
人工的なもの。
今回は素材に着目し
どんな形を取って空間をつくり上げているのか、見てみた。
さあ、素材のトンネルを潜って、建築の世界へ。

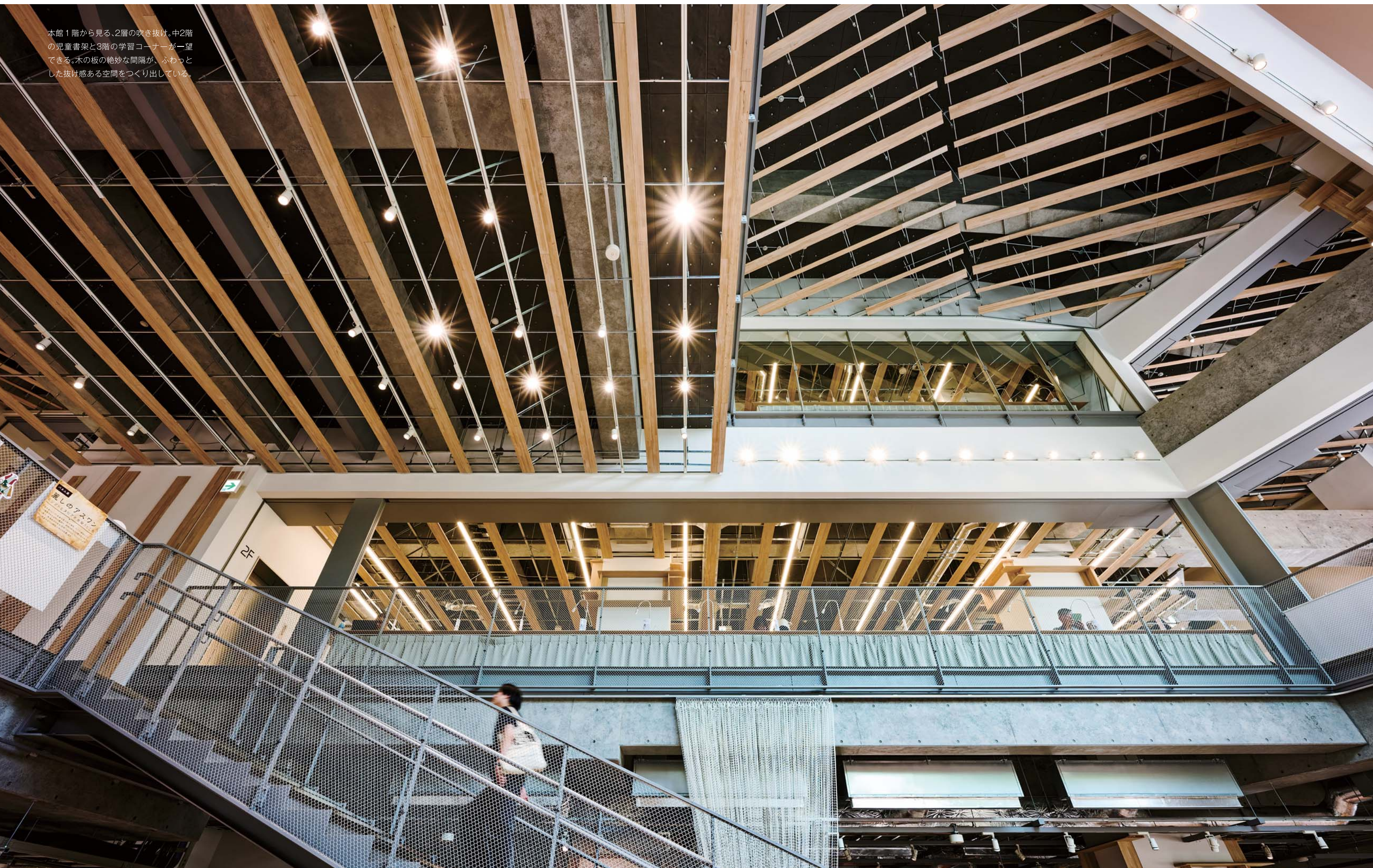


撮影
松崎典樹（上越市立水族博物館 うみがたり）
村井 勇（図書館等複合施設「まちやま」）
文
伊藤亜弥、橋本安奈

コンクリートの壁が岩のような凹凸を見せる中、
トンネルは日本海をジオラマにした大水槽の中を
貫通する。厚さ120mmのアクリルの筒に入ると、
まるで海の底を歩いているかのよう

やわらかいもの

本館1階から見る、2層の吹き抜け。中2階の児童書架と3階の学習コーナーが一望できる。木の板の絶妙な間隔が、ふわっとした抜け感ある空間をつくり出している。



AT HOME LABO

EXAMPLE REPORT P150

暮らしを通じて、
お客様満足度地域No.1を
目指し続けます！



アットホームラボ / 株式会社アオキ住建

【柏崎】〒945-0041 柏崎市松美1-12-25 フリーダイヤル 0120-15-9262
【上越】〒942-0064 上越市塩屋新田350 フリーダイヤル 0120-55-9262

代表者／青木一憲
創業／1900年
資本金／2,000万円
従業員／85名

事業内容／新築事業、リフォーム&リノベーション、建材卸、設備施工工事、不動産
取扱工法／木造軸組工法
有資格者／一級建築士 2名、二級建築士 7名、宅地建物取引士 4名、二級建築施工管理技士 2名
免許番号／建設業許可 新潟県知事(般-7)第28120号、一級建築士事務所 新潟県知事(イ)第5400号
宅地建物取引業 新潟県知事(2)第5492号
加盟瑕疵保険／株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱いはり単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

～60万円未満	～70万円未満	～80万円未満	～90万円未満	～100万円未満	100万円以上
---------	---------	---------	---------	----------	---------

取り扱いエリア

全 県	下 越	中 越	上 越
-----	-----	-----	-----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施

標準耐震等級

2	3
---	---

青木 真大

二級建築士、アットホームラボ代表。建築デザイン学部を卒業後、住宅業界へ就職。実務を経て、アオキ住建へ入社。建築部の責任者として1,500件以上の新築・大規模リノベーションに関わる。



www.athomelabo.jp

資料請求番号 16

スマートフォンからでも資料請求できます。



IELIFE

EXAMPLE REPORT P144

自然素材でつくる
木の家の家



イエライフ / 小出建設株式会社

【本社】〒954-0057 見附市新町3-3-10 Tel 0258-62-2261 Fax 0258-63-0176
【アトリエ】〒940-0046 長岡市四郎丸4-10-26 Tel 0258-33-3118 Fax 0258-33-4830

代表者／小出直樹
創業／1972年
資本金／3,000万円
従業員／17名

事業内容／建築設計・施工・監理、不動産の売買・仲介、宅地造成工事
取扱工法／木造軸組工法
有資格者／一級建築士 2名、二級建築士 5名、宅地建物取引士 2名
インテリアコーディネーター 1名、1級建築施工管理技士 3名
免許番号／建設業許可 新潟県知事(特-3)第5552号、一級建築士事務所 新潟県知事(ホ)第4102号
宅地建物取引業 新潟県知事(14)第1498号
加盟瑕疵保険／株式会社住宅あんしん保証、住宅保証機構株式会社、株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱いはり単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

～60万円未満	～70万円未満	～80万円未満	～90万円未満	～100万円未満	100万円以上
---------	---------	---------	---------	----------	---------

取り扱いエリア

全 県	下 越	中 越	上 越
-----	-----	-----	-----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施

標準耐震等級

2	3
---	---

小出 直樹

代表取締役。「家づくりは暮らしの提案」をテーマに、住まい手の想いとイエライフのコンセプトを掛け合わせた最適なプランを親切丁寧提案している。



www.koide-arc.com

資料請求番号 15

スマートフォンからでも資料請求できます。



ものの生まれるところへ

nine / 九里家具製作所

木を見て、家具となす

つい座りたくなる椅子だ。
なめらかな座面に腰を下ろして
背をゆったり、もたれかけて。
記憶のどこかにあるほっとする形、
しかし、それとは分らないデザインがある。
見えないところに目と技、時間をかけた
木の家具、その製作所を訪ねた。

撮影／渡邊久男

「何者かになりたい」 選んだ木製家具の道

有機的なカーブを描く座面と背。美しいけれどツンとすましていない。包み込むようなやさしさと温度感がある。控えめにデザインがある。

取材先の住宅、かなりの確率でnineの家具に出合うようになった。特に椅子と丸テーブル。製作しているのは九里裕之さんだ。サラリーマンを経て「会社の歯車になりたくない」とものづくりの世界に踏み入った。木工に興味が生まれたのは、長野県木曽にある職業訓練校に入ってから。北欧の家具、なかでもポーエ・モーエンセンに引かれ「家具ってカッコいい。つくりたい」と思ったという。そして「お試し採用」の後、入社したのが大阪の「TRUCK（トラック）」。素材を生かしたヴィンテージ感ある家具で業界を席巻、若者に絶大な人気を誇った。「当時、オークを日本で一番触っていた会社だと思う」。7年の間に「半端ない数」の家具製造に携わり、膨大な経験と場数を踏んで2009年、生まれ育った長岡に家具の製作所を開いた。下請けもしていた当初を経て、現在はすべてnineを冠したオリジナル。変わらず、一貫して手で作っている。

右頁／魚沼の大白川で間伐されたブナ材「スノーピーチ」を使った丸テーブル。「若い時は耳付きの板とか、おじさんほくて好きじゃなかったんですが最近はいいと思うようになった」と節もそのまま生かして 左頁／チェリーを2枚、貼り合わせた座面に鮑(かんな)をかける。どの板と組み合わせるといい感じになるか、その都度、木目を見て決めるという